

令和4年度 都城市立上長飯小学校 学校評価報告書

評価 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

【学校経営ビジョン】子どもに「今日も学校に来てよかった！」と感じさせる学校・学級経営～よき伝統の継承・学校内共通の壁の確立・子どもの後ろに保護者を感じる風土の醸成・ATM Mindの尊重

重点目標	評価項目	自己評価コメント	総合評価	改善及び対策	学校関係者評価コメント	評価
豊かな心の育成	1 他学年へのよい相互影響	チャイム中の静止、一列歩行については徹底ができるが、無言移動、会釈が十分ではない。靴箱の靴がきちんと並べられている。 「チャイム黙想での授業開始」：職96.9%	3	全職員で共通理解・共通実践を行うとともに、昼の放送や全校朝会で生徒指導主事がその都度指導する。	○チャイム黙想が徹底されている。 ○靴箱の靴はいつもきれいに並んでいる。 ●無言移動が徹底されているが、来校者へのあいさつや会釈があるとよい。	3.5
	2 地域へのよい影響	5・6年生が主体的に朝のあいさつ運動を行った結果、以前よりも大きな声であいさつができるようになってきたが、さらに継続して取り組む必要がある。「あいさつや会釈」職62.5%「進んであいさつ」児：89.6% 保：71.9%	3	高学年児童によるあいさつ運動を継続するとともに、全職員による現場指導を徹底する。	○登校の際、停車した車に対しての一礼が継続されており、高学年からの継承がなされている。 ○職員が率先してあいさつをする姿は、見ていて心が洗われる。まずは、手本を示し、やらせて褒めることが大切である。 ●朝のあいさつや会釈が地域の方には少し足りない気がする。 ●子どもたちが主体的に行うボランティア活動を計画的に継続して行ってほしい。	2.8
	3 学校全体を守る	問題発生時の管理職への報告・連絡・相談の徹底により、保護者、関係機関と連携して早期に対応することができた。不登校についても組織的に対応することができた。「報告・連絡・相談などの連絡体制」職96.9%	4	事案の大小にかかわらず、丁寧かつ迅速に対応していく。事後の見届けも確実に行う。	○迅速な対応は保護者の学校に対する信頼にもつながる。今後も継続してほしい。	3.7
	4 授業を守る	学習訓練の徹底と複数教員の指導により、どの学年も落ち着いて学習に取り組むことができた。 「指導が通らない児童への生徒指導体制」職：93.7%	4	立腰指導を含む学習訓練をさらに徹底するとともに、複数教員での見届けを確実に行う。	○大変よい結果が出ている。今後も継続してほしい。	4.0
	5 保護者の信頼を守る	保護者からの問い合わせや要望については、校内で協議し、速やかに対応することができた。必要に応じて、全保護者に周知した。「保護者、関係機関との連携で適切な対応」職：93.5%	4	保護者からの問い合わせや要望には誠実に対応し、学校の説明責任を果たす。また、学校の取組をホームページ等で積極的に発信していく。	○学校ホームページも毎日更新され、学校の様子が大変よく分かる。 ○大変よい結果が出ている。保護者の信頼をさらに得るために、今後も継続してほしい。	4.0
	6 子どもの生き甲斐を守る	都城市版デジタルキャリアパスポート「おいろぐ」の導入に向けた準備を計画的に行めている。 「計画的なキャリア教育の推進」職：82.8%	3	「おいろぐ」について職員研修を行うとともに、その活用を計画的に行っていく。	●「おいろぐ」について、もう少し詳しく説明があるとよい。 ●地域人材の活用についても提案したい。	3.0
学力向上	1 学習指導法の改善	県が示している「授業改善の4+4のチェックポイント」に基づいた授業実践を継続して行った。また、職員研修や支援訪問で研究授業を行い、学習指導についての研修を全職員で行った。 「分かる・できる授業づくりの実践」職：90.3%「授業が分かる」児：96.5% 保：88.2%	4	授業中及び週末の課題の1つとしてキュビナを活用して習熟を図り、学力向上につなげる。 「授業改善の4+4のチェックポイント」をさらに意識させ、日々の授業の質の向上を図る。	○児童のアンケート結果が高いのは大変評価できる。	4.0
	2 I C T 教育の充実と研修推進	各学年の発達段階に応じて、昨年度よりさらに授業やカーミータイムでのタブレットの活用を図っている。 「研修が教育実践に活かされている」職：93.6%	4	さらに研修を進め、授業実践で出てきた課題を改善していく。	○タブレットの積極的な活用が図られている。今後の I C T 教育に期待する。	4.0
たくましい体	1 体育指導の充実	本年度も体育の活動や家庭での外出に制限がかかり、十分な運動時間を確保することができなかった。「体育学習の工夫を中心とした体力向上」職：73.4%「体育以外の体力向上」児：86.7%	3	感染症対策及び熱中症対策を十分とり、1単位時間の運動量の確保に努める。児童に自分の体力に関心をもたせ、運動への意欲付けを図る。	○コロナ禍で制限がある中、先生方が工夫して指導されたおかげで、素晴らしい運動会となった。 ●持久走や縄跳び、外遊びなど、体力向上につながる取組を工夫して指導してもらいたい。	3.3
	2 校外スポーツと連携	各少年団とも新型コロナウイルス感染対策をしながら活動し、各種大会で表彰を受けた。児童の体力向上に寄与している。	3	各少年団の活躍をホームページや全校朝会等で称賛し、意欲付けを図る。	○学校ホームページから活動の様子がよく分かる。 ●子どもたちのがんばる姿がホームページ以外でも見られるとよい。地域の方にもっと周知できるとよい。	3.0

たくましい体	3 保健指導	感染症対策を確実に行った上で、各種検診を実施した。また、学級担任と連携し、保健室が不登校傾向児童に対する居場所づくりとなつた。 「適切な衛生や健康に関する指導」職：93.3%「早寝・早起き・朝ご飯」児：86.7%	4	児童の健康安全に関する啓発を職員、保護者、児童に積極的に行い、けがや病気の未然防止に努める。 担任と連携し、健康、衛生に関する授業に積極的に参加する。	○感染症対策が徹底されている。	4.0
	4 食育	感染対策と異物混入防止対策を徹底しながら、給食指導を行つた。給食主任を中心に全職員で指導に当たり、整然と活動させることができた。 「給食時の適切な衛生指導」職：93.3%「給食は好き嫌いをせず食べる」児：80.9%	3	「お弁当の日」を設定し、全校で取り組む。また、偏食指導についても継続して取り組む。 異物混入を想定した学校内の対応マニュアルを作成し、活用した。	○手洗い・うがい・消毒が定着してきている。 ●感染対策を徹底する一方で、「楽しんで食べる」「食べることへの楽しみ」を感じられるようにしてほしい。 ●食育指導についてさらに力を入れてほしい。	3.0
安心安全な学校づくり	1 真面目・頑張る子どもが犠牲とならぬ安心した学校経営	問題の早期発見・解決のため、報告・連絡・相談体制を徹底した。また、保護者や関係機関とも連携し、継続した指導を行つてゐる。「指導が通らない児童への生徒指導体制」職：93.7%	4	丁寧かつ迅速な対応を心がけ、担当職員だけでなく、複数の目で確認して対応する。	○楽しい学校づくりのために、今後も継続してほしい。	4.0
	2 登校渋り、不登校児への対応	不登校の兆候が認められたら、生徒指導主事や担任が早急に対応した。また、不登校の原因が保護者にある場合は、SSWやこども課、福祉課にも協力ををお願いして対応した。 「配慮を要する児童への理解と指導」職：100%	4	保護者面談、関係機関と連携した対応を行い、保護者の理解や信頼を得ながら進めていく。	○不登校傾向の児童に対して、生徒指導主事が毎朝、迎えに行って声かけをしている。大変ありがたい。	4.0
	3 緊急時の対応	1学期に災害時を想定した引き渡し訓練を実施し、保護者への確実な受け渡し方法や誘導の方法の確認を行つた。 「不審者を想定の避難体制の整備」職73.3%	4	本年度整備したマニュアルを年度当初に全職員で確認し、緊急時に即時対応できようとする。	○災害時に備えた訓練は不可欠である。今後も地震や火事、不審者を想定した避難訓練を計画的に実施してほしい。	4.0
	4 新型コロナウイルス 感染症防止の徹底	感染レベルに応じた教育活動や感染対策を整理し、職員や保護者、児童に周知した。 「衛生や健康に関する指導の実施」職：100% 保：95.1% 児：95.8%	4	感染レベルに応じた教育活動や感染対策を全職員で行い、感染拡大防止に努める。	○マスク着用が徹底されており、大変よい。	4.0
情報発信	保護者の信頼を得るための様々な情報発信	毎日、ホームページ（日誌）を更新するとともに、月1回の学校便り、緊急時のメール配信を行い、本校の取組を積極的に発信している。 (HPアクセス数目標6万件に対し、12月15日時点75,448件アクセス)	4	本年度同様、学校の教育活動や学校からのお知らせ等を積極的に発信していく。	○毎日の更新で、学校の情報がよく伝わる。 ●コロナ禍でなかなか難しいが、学校の取組がさらに地域に発信できるとよい。	3.8
特別支援教育の充実	相談体制の充実	特別支援コーディネーターが中心となり、保護者と学校の面談、保護者と関係機関の面談を計画・実施することができた。「福祉・医療・教育等の関係機関と連携ができている」職：100%	3	今後も相談体制充実を図つていく。	○どの子も平等に学校教育を受けられる体制づくりを今後も進めてほしい。	3.7
家庭・地域社会・関係機関との連携	開かれた学校づくり	コロナ禍ではあったが、学校運営協議会は計画どおりに実施できている。学校支援ボランティアのリスト作成の前段階として、学校が必要とするボランティアの洗い出しを行つた。 「社会に開かれた学校づくりの実践」職：93.3%	4	より充実した教育活動を行うために、コロナの感染状況を見ながら学校が必要とするボランティアを募集し、地域の人材の確保を行う。	○学校の様子が分かり、地域との連携も十分できている。 ●学校運営協議会委員が地域との橋渡しとなるべきだと思うが、その役割を果たせず申し訳なく思う。さらに、意見交換等を積極的に行っていただきたい。 ●現在、中断しているボランティア活動をコロナ禍前のように行えるのかが懸念される。感染対策をしながら実施できる活動は実施してほしい。	3.5
職場の働き方改革の推進	教職員の健康と家族を守るための改革	毎週金曜日のリフレッシュデイ（17時30分退庁）の設定、職員会等の精選による放課後の時間の確保などをを行い、昨年度よりも成果を上げた。 「職場の働き方改革が推進されている」職：84.4%	3	さらに、教職員の業務や学校行事等を見直し、縮減や効率化を図る。	●夜遅くまで電気がついていることもあり、先生方の健康等が心配である。今後も、職場の働き方改革を推進してほしい。	3.0

※ 自己評価コメント欄の「%」は、「職」が職員の評価で「期待以上」「ほぼ期待どおり」の合計、「児」が児童、「保」が保護者のアンケートの「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的だと考えられる意見の合計の割合です。